

中部の

# エネルギーを 築いた



長野電鉄と志賀高原の開発者 神津藤平

中部電力株の水力発電所の中に、創設者の名を冠せた藤平第一・第二発電所がある。

今月は、長野電鉄株の前身である河東鉄道株と長野電気鉄道株を興し、志賀高原を開発した神津藤平を紹介する。



上林ホテル西庭にある  
神津藤平翁胸像

## 長野電鉄株の設立 (河東鉄道と長野電気鉄道が合併)

神津藤平は、長野県北佐久郡志賀村(現在：佐久市)に生まれた。慶応義塾に学び、卒業後東京電灯株に入社した。2年後に帰郷し、地元の佐久鉄道株の相談役に就いた。当時、佐久鉄道は、小諸～中込～小海間の鉄道を開発していた。

1920(大正9)年、河東鉄道が設立され、佐久鉄道より屋代～須坂間の鉄道敷設免許を授受し、取締役社長に神津藤平が選任された。創立後すぐ工事を始め、1922(大正11)年に屋代～須坂間(24.4km)を開通させた。その後、須坂～信州中野間(13.1km)、信州中野～木

島間(12.9km)の工事を行い、1925(大正14)年に屋代から木島まで開通した。

1923(大正12)年、長野電気鉄道が設立され、取締役社長に神津藤平が就任した。ただちに権堂～須坂間(11.5km)の敷設工事を行い、1926(大正15)年に運転を開始した。

これにより、両社の本社事務所と社長が同じであり、また経営・技術面でも密接な関係にあったので、合併の機運が高まり、同年、新たに長野電鉄が設立され、神津藤平が社長に就任した。

## 鉄道の電化と樽川発電所の建設

河東鉄道は、創立当初から電化を考えており、長野電気鉄道の設立を機に、電化計画が本格化した。そして定款を改定して事業目的に電気供給を加えた。

1926(大正15)年1月、河東線に電車が開通した。電気鉄道の方式は、当時国鉄が600v、1,200vの電圧であったが、直流架空単線式1,500vの電圧を初めて採用し注目された。

一方、水力発電所は長野県下高井郡上木島村地籍の樽川に、樽川第一・第二発電所を建

設した。第一発電所(最大出力：650kW)は、



樽川第二発電所建設工事

電車の開通に合わせ同年1月完工した。水車はドイツのフォイト社、発電機は日立製であった。第二発電所(最大出力：930kW)は、

同年11月から運転を開始した。水車は第一と同じドイツのフォイト社、発電機は芝浦製作所製であった。

## 樽川発電所から藤平発電所へ

樽川第一・第二の運転・管理は、当時の信濃電気株に委託し、発電電力もすべて同社に供給し、電車を走らせた。戦後、中部電力株に移管されると、長野電鉄所有の長鉄第一・第二発電所として受託運転を続けた

### 資料 藤平第一・第二水力発電所

発電所の名称	藤平第一	藤平第二
所在地	長野県下高井郡山ノ内町	長野県下高井郡木島平
運転開始	1926(大正15)年1月	1926(大正15)年11月
最大出力	650kW	930kW
水車	フォイト社製	フォイト社製
発電機	日立製	芝浦製
有効落差	151.45m	147.10m

が、1992(平成4)年に中部電力に譲渡された。

中部電力では、長野電鉄・神津藤平社長の創業理念から造られ、同社の社業発展に寄与してきた由緒ある発電所を「藤平第一・第二発電所」と名付けた。そして、発電所の由来を後世に伝えるため藤平第二発電所構内に「この藤平第一・第二発電所は、長野電鉄初代社長神津藤平翁が河東鉄道(現長野電鉄)の電化をはかるため、自ら建設した由緒ある発電所である。大正15年11月に発電を開始し、その後60有余年発電を継続して、平成4年3月、中部電力に引き継がれた」と記された記念碑を建立した。

また、第二発電所の設備改修に伴って撤去



藤平第二発電所構内にある記念碑

された水車ランナーと水圧鉄管の一部が長野電鉄小布施駅構内に展示されている。水車ランナーは、ドイツ・フォイト社製で、パケットの一つ一つがボルトで取り付けられており、水圧鉄管は両側目板リベット接合構造で、数少ない産業遺産である。

## 志賀高原の開発

1928(昭和3)年、長野電鉄・長野～湯田中間が開通すると、神津藤平は志賀高原の観光開発に乗り出した。往時、志賀高原の地は、あまり知られていない山野であった。志賀とは、当時、丸池の奥地一帯は「志賀」あるいは「しがのたかはら」と呼ばれていた。藤平は故郷である志賀村(現在：佐久市志賀)の名にちなみ「志賀高原」と名付けた。

志賀高原の名が有名になったのは、1928(昭和4)年、ノルウエーのスキー使節ヘルゼット一行が来訪し、東洋のサン・モリッツと激

賞した。これが機縁となり、同年、秩父宮様などの岩菅山登山が全国に広く紹介するきっかけとなった。

第二次世界大戦後、志賀高原の丸池スキー場一帯は進駐米軍の管理する所となり、1947(昭和22)年に、わが国初のスキーリフトが架設された。1952(昭和27)年に接收が解除され、ふたたび活況を取り戻した。

神津藤平は、1920(大正9)年から昭和35(昭和35)年の亡くなるまで、長野電鉄の取締役社長を務めた。(寺澤安正)